



# 未来バンク事業組合 ニュース

発行：未来バンク事業組合事務局：http://www.geocities.jp/mirai\_bank/ No.91 2017年6月

## 新金のサラ金、 その名も「銀行カードローン」

未来バンク事業組合 理事長 田中 優



まずはこのグラフを見てほしい。このグラフは「無担保ローンの融資残高」だ。かつて社会問題化した「サラ金」たちの資金貸出額を、銀行が軽く超えてしまっているというものだ。友人から「クラブアップ現代」で放映されていたと聞いたので早速検索。ちゃんと見つかった。見てみたらこれが優れた番組だった。

かつてサラ金がきつい取り立てや過剰貸し付け、高金利の「3K」が問題になって厳しい規制が課せられるようになった。特に厳しい規制は、法定金利を上回った金利の返済と、本人の年収の3分の1を上回る貸し付けの禁止だった。ところが銀行は「善意の機関」と信じられていてその規制を受けなかった。そこでサラ金に代わって伸びたのが銀行カードローンだったのだ。

しかし銀行は個人の信用情報を持たないし、融資のノウハウもない。そこでサラ金が信用情報を審査し、万が一の焦げ付きには補償をし、銀行はノーチェック、ノーリスクで貸し出すようになったというのがこの流れだ。

かつてサラ金では生命保険を掛けさせて、本人が自殺すると資金回収できるので、社内で契約者の自殺に万歳三唱をしたという。ところがその業態が銀行に移



ったのだ。サラ金は銀行と提携することがあったが、それがこういう形で進化していたのだ。

本来銀行は、地域の事業者に融資して共存共栄を目指したものだが、もはやそんな余裕はない。国債はマイナス金利、事業融資は金利が低く目利きができないことから銀行自体が個人カードローンに走ったのだ。金利は3%~15%となっているが、大きい金額か期間が短いものでなければ安い金利は適用されず、個人ローンの多くは高い側の金利になってしまう。しかもリボルビング方式による定額返済で、金利負担が非常に大きくなってしまふのだ。

経営の厳しくなった銀行も、これを積極的に営業成績に結びつけ、堅実経営の中小企業への融資より優先して自分で審査せず、リスクも少ない個人ローンを優先する。それが営業成績につながるのだから、職員も競って融資しようとする。やがて破裂するバブルならぬカードローン破産に向けて、恥も外聞もなく銀行はアクセル全開にしたのだ。

低所得者は当然カネが不足することが多い。その人たちがターゲットだ。リボ

ルビング方式なら、返済は6年ほどで借入元本の1.5倍になる。低所得者は、その間にまた再びカネが足りなくなる可能性が高いのだ。すると再び銀行カードローンに頼る。そのようにして利益を得ていくのだ。

吸血鬼のような業務を、銀行が中心になって広げだした。何より大きいのは「年収の3分の1以上は貸し出せない」という総額規制のない点だ。サラ金が規制されてできなくなったことを、「銀行は悪いことをしない」という神話の下で続けられるのだ。そのせいで13年ぶりに自己破産者が増加した。

これは新たな「銀行地獄」の始まりだ。銀行は善意で運用しているものではない。カネの魔力に憑りつかれた存在だ。人々の世帯所得はピーク時から100万円以上下がった。年収がそれだけ下がれば、学費も出せなくなるし、万が一の費用不足の事態も当然起こる。そんなときになっても銀行カードローンに頼るのは危険だ。

何より収入に見合った暮らしに戻さなくてはいけない。そのためには現金支出の削減こそが重要なのだ。

↑ Web サイトからのコピー画像です。

# ビットコインに預金登場

## —ビットコイン銀行は誕生するか—

木村瑞穂

### ■ビットコインに預金が登場

ビットコインに預金が登場した。国外では既に存在したらしいが、日本では初めてだ。

金融庁が「ビットコインは法定通貨ではないため銀行法には抵触しない」という判断を示したようだ。

預ける期間によって金利は異なるが、1年間だと5%の金利がつくそうだ。

でも、金利の原資はどこから来るのだろうか。最初はビットコインの値上がり益から返済するのかなと考えたが、それでは無理であることにすぐ気づいた。返済すべきビットコインの価値も増えてしまうからだ。

次に考えたのはビットコインを融資して金利を取るビジネスモデルだ。貸金業と同じビジネスモデルである。でも、誰がビットコインを借りるのだろうか。俄には思いつかない。預金に5%の金利を付けるためにはそれ以上の金利で貸し付けなければならない。ビットコイン自体どんどん価値が上がっているのに、ビットコインで借りて、かつ高い金利を支払うニーズは思いつかない。円とは異なりグローバルな通貨なので、海外には借り手がいるのかもしれない。

その次に思いついたのはビットコイン

の信用取引である。ビットコインの信用取引を提供する業者は少なくない。ショートポジションよりもロングポジションの方が多いただろうから、ニーズはあるのだろう。

### ■ビットコイン銀行は可能か

しかしながら、預金が登場したからといって、ビットコイン銀行が誕生するということではない。銀行は信用創造というマジックを使って、お金がなくても融資をすることができる。銀行が預金という通貨を発行して融資をすることができるからだ。

今回登場したスキームでは、預金者からビットコイン預かることはできるし、その預かったビットコインを貸すこともできる。しかし、ビットコインを発行して貸すことはできない。したがって、ビットコイン銀行が誕生したわけではない。

では、ビットコイン銀行を作ることは無理なのだろうか。

銀行の真似をすればビットコイン銀行を作ることは可能である。

銀行預金は事実上通貨として流通しているが、本当は通貨ではない。日本銀行の発行する日本銀行券といつでも1対1で交換可能であることを保証することによって、銀行預金を通貨たらしめている。

それならば、ビットコインといつでも1対1で交換可能な「ビットコイン預金」という仮想通貨を発行すればよい。そうすればビットコイン銀行を作ることができる。資金決済は、ビットコイン銀行の預金口座を使って処理すればよい。

預金者が一気に押し寄せてビットコインに交換してくれと言えどどうなるか。取り付け騒ぎが起こる。これは普通の銀行と同じである。銀行の場合には、日本銀行という強力な後ろ盾が存在するが、ビットコイン銀行には存在しない。

### ■YENという仮想通貨の銀行は可能か

それでは次の頭の体操をしよう。

「円」という法定通貨と同じ価値を持つ仮想通貨を作って、その銀行を作ることには可能だろうか。

法律の条文を読む限りにおいては可能である。

実は「円」という法定通貨と同じ価値を持つ仮想通貨は既に存在している。

ripple という仮想通貨の体系の中には「JPY」という仮想通貨が既に存在している。1円はいつでも1JPYと交換可能だし、1JPYはいつでも1円と交換可能である。ただし、JPYを発行するNODEと呼ばれる業者が破綻したら交換できなくなるけれども。

このJPYという仮想通貨は法定通貨ではない。したがって、JPYに関する預金は可能だし、JPYと交換可能な仮想通貨をもう一つ作れば銀行も可能だ。

JPYと交換可能な仮想通貨をYENと名付けてみよう。「円」と同じ価値を持つ

YENという仮想通貨を扱う銀行を作るとは可能だ。そして、YENという仮想通貨をじゃんじゃん発行すれば大儲けもできる。

もちろん、実際にYENを取り扱う銀行を作ってYENをじゃんじゃん発行し始めれば、財務省か金融庁が飛んできてあれこれ言って邪魔だてをするだろう。法律を変えるという最終手段を行使してくるかもしれない。

### ■銀行預金は法定通貨ではない

銀行預金は「円」という法定通貨の単位で記帳されているし、資金決済も可能だ。だから、銀行預金は法定通貨のように振る舞っているが、実は法定通貨ではない。単なる銀行の債務にすぎない。

「通貨の単位及び貨幣の発行等に関する法律」というものがあって、その第二条に「通貨」とは、貨幣(五百円玉や百円玉などのこと)と日本銀行券だけと明確に書いてある。

銀行預金は通貨と交換可能だと銀行が約束し、日本銀行がそれをバックアップしているに過ぎない。

仮想通貨の銀行と円の銀行の違いは日本銀行がバックアップをしているかどうかだけの違いである。

仮想通貨のグローバルなネットワークが強力になり、中央銀行を超える信用力で仮想通貨の銀行をバックアップできるようになれば、世界の秩序は根底から変わる。

その日は意外と遠くないかもしれない。

# あなたの価値を知っている人は他者

岡田 純

何にどれくらいの価値があるのかということとは自分自身では分からないことが多いです。地域振興の現場でもよく「若者、よそ者、馬鹿者」を仲間に入れなさいなどといわれます。長年住んでいても自分の町のすばらしさはなかなか気づきにくいということでしょう。

わたしは税理士ですが、たとえば取得した資産の価値、つまり取得時の価額はいくらになるのかが税務上よく問題になります。市場での取引があるものはその取引価額を参考にすればよいので比較的簡単です。しかし友人間や親族間の取引など市場を介さない場合は市場価格が存在しないので自分で時価をひねり出さないといけません。相続税や贈与税はその「時価」に課税されるからです。

ではどうやって時価を測るのでしょうか。税務上の定義では、時価とは「不特定多数の当事者間での自由な取引が行われる場合に、通常成立すると認められる価額、すなわち客観的の交換価値」とされます。

ここでは「不特定多数」と「自由な取引」がキーワードといえるでしょう。もともといろんな考えを持ったたくさんの人間がいなといけなくて、さらに個々人の判断で自由に取引に参加できるようにしておいてくださいというわけです。「これにはこれくらい価値がある」と世界が発見するにはそもそも

の「前提」が必要ということでしょう。

経済の分野では、新商品・新サービス・新市場が注目を浴び、付加価値を生むということにエネルギーが注がれます。それは非常に大切なことですが、そもそも「あ、これには価値があるね」と認識されるためには前提が必要で、言い換えれば他者の存在であり多様性ということでしょう。

海彦は山彦を必要とします。山彦も海彦にいてもらわないと自分の持っている毛皮の価値を発見できません。森彦も川彦も砂漠彦もいてほしい。



↑ Web サイトからのコピー画像です。

そういう原理を政治に応用したのが民主主義というシステムなのでしょう。いろんな考えを持った不特定多数の人間が自由に投票する民主主義。たくさんの票を獲得したひとが権力を持つという意味では確かに多数派の圧制に過ぎません。独裁制は一人による圧制。貴族制は少数による圧制。どれも似たようなものといえれば似たようなものです。

しかし価値の発見の原理を組み込んだ制度という意味では、民主制はほかの二つに比べて優れた政治制度だと思います。それは少数派の意見の尊重ということでもあります。

我が国ふくめ、ちょっと専制君主的なリー

ダーが跋扈していますが、そう簡単に民主主義はあきらめることはできないのではないかと思います。アメリカファーストや都民ファーストも結構ですが、アメリカオンリーや都民オンリーにならないことが肝要です。

## 温暖化防止のための「炭」利用

奈良由貴

私が現在代表を務めている環境 NPO 「足元から地球温暖化を考える市民ネットエドがわ(足温ネット)」が設立 20 周年を迎えました。1997 年、京都での COP3 開催を前に市民が地域で温暖化問題に取り組もうと発足して以降、具体的かつ画期的な実践をいくつも展開してきた環境 NPO です。 <https://www.sokuon-net.org/>

当バンクの田中理事長も発足の立役者であり、田中優氏がもたらす国内外の豊富な情報と知見に触発され、メンバーが知恵を出し合い面白い活動を重ねてきた 20 年でもありました。

岡山に越してしまった田中優氏にも 20 周年記念のイベントに参加してもらったのですが、またまたメンバーや当日の参加

者を触発してくれました。前回のニュースレターの原稿にもあった「炭」の活用です。植物は CO<sub>2</sub> を吸収し成長しますが、伐採して燃やしたり腐れば再び放出します。しかし炭にすれば CO<sub>2</sub> を閉じ込めたままにできます。そして、それを土に埋めることで土壌が豊かになるという話は、前回のニュースレターでも紹介されていましたね。そう、「テラプレタ」です。無煙炭化器買っちゃったって話。CO<sub>2</sub> の永久的な地中固定。これは数値化もできるし自治体のエネルギービジョンにぜひ取り入れたいと、WS で盛り上がりました。この「炭」プロジェクト、どうやって地域の活動として具体化するか、面白そうでしょ？

みなさんの地域でもどうですか？！

### 編集後記

★未来バンク事業組合の総会が近づいてまいりました。ゲストは印鑰智哉 (いんやくともや) さん。種子法廃止の問題などを中心にお話を伺います。

6月25日(日)14時~17時

文京区シビックセンター 5階会議室D

※ 組合員以外の方もオブザーバーとして参加できます。

★岡田理事の原稿の中に海彦・山彦が登場した。海彦が悪者的に扱われる話が多いけど、神話として何を隠喩しているのか、隼人族と安曇族の関係？三人兄弟のはずなのになぜ二人しか登場しない？興味深いです。調べる時間ないけど… (奈良)

未来バンク事業組合ニュースNo.91  
2017年6月

★編集・発行：  
未来バンク事業組合事務局

★連絡先 〒132-0033  
江戸川区東小松川3-35-13-204  
FAX：03-3654-9188  
留守録専用：050-5534-3159

E-mail： [mirai\\_bank@yahoo.co.jp](mailto:mirai_bank@yahoo.co.jp)

URL：  
[http://www.geocities.jp/mirai\\_bank](http://www.geocities.jp/mirai_bank)